

長畝ふるさと通信



【2025年7月号】

■ 雨乞い効果なし、乾ききっています

6月下旬から全く雨が降っていません。新穂ダムの貯水率も60%を割り、7月20日からは田んぼの水配を少しでも全体に行き渡る様、ファームポンドの水配ローテーションを1日置きから4日置きに変更し対応しています。それでも場所によっては水が回っていかない田んぼもあり、このままでは令和5年産の悪夢が再び現実となりそうです。令和5年産は空梅雨・酷暑により早くから田んぼの水が枯渇し、高温障害によって歴史上初の「コシヒカリ1等米ゼロ」という悲惨な経験をしました。今年は全国的にも6月から高温が連日続き、北海道で最高気温が40度に迫る異常気象です。それまでは山形県の酒田が40度の北限だったそうで、一気に北上してしまった訳です。「常夏の国ニッポン」が現実味を帯びてきました。このままではこれまでの稲作が通用せず、せつかく苦勞して田んぼを作って苗を植えても収穫できない事態まで想定されます。深刻な事態です。



- 朝露に光る稲穂は輝いて見えますが、足元は砂漠のようでようやく立っている稲たちです。
- 毎晩、晩酌で雨乞いしてますが、効果なし…もっと呑むしかないか…
- 今が旬の桃やブドウも小玉で例年の半作、スイカは収穫量が激減してバカ値が付いています。

■ 河川の草刈はもう業者任せ、手に負えません

7月末、カメムシの住処となる河川の堤防や田んぼの畔は一斉に草刈りをしますが、先月号でもお伝えした通り、過酷な作業です。大きな河川の堤防は県の管轄ですが、予算縮小を口実に実施するのは年に1回、この時期だけです。しかも今年は6月からの異常高温のせいで雑草の草丈が異常に伸び、人間の身長を超えている状況です。業者の大型重機でさえ、草刈に難航する始末。我々の手にはとても及びません。近年の異常気象でカメムシが異常発生して、コメの格落ち原因となっていますが、はっきり言ってお手上げ状態、カメムシパラダイスです。



(左上)雑草の草丈は身長を超えています
(右上)大型重機がバリバリと草をなぎ倒していきます。人間の手ではできません。
(左下)カメムシの住処を一掃することができました。しかし、県の予算は刈り幅5mまでと決められており、残りは地元の我々が手刈りしていましたがもう限界。仕方なく地元の資金で業者をお願いしています。これが納得できないが現実です。

■ 令和7年産米の予約会員様には8月末にご案内いたします

例年なら7月末に予約のご案内をさせていただいておりましたが、コメ情勢が混んとしており状況が未だに把握できない状況です。会員の皆様に納得してご利用いただける内容をしっかりと検討させていただき、8月末にはご案内させていただきます。コメ品質の不安定、運賃や諸物価の高騰など頭の痛いことばかりですが、皆さんが安心して1年間食べていただける量は確保致しますので、ご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

ツバメのヒナが孵り、酷暑の中必死に生きようとしています。雨乞いに加えてヒナたちの巣立ちも願いながら冷たいビールだけを楽しみに生きています。

みんな頑張り〜っ

